

ら 訪 歴 史 探 訪

TAHARA History Inquiry Club

た は 探 訪

歴史 探訪 クラブ 其の33

新しく指定された文化財
『籠池古墳』

田原市となって記念すべき第1号の文化財が10月3日に指定されました。その文化財は籠池古墳です。

古墳とは、古墳時代（3世紀後半～7世紀前半）に身分の高い人を葬るため土を盛り上げて築かれたお墓です。この時代は、お墓の形・大きさ、副葬されたモノによって、その人の身分をはじめ社会の秩序が決められていました。また、築かれる場所も、ムラを見下ろす丘や山頂、重要な道路・海路ににらみを効かせる場所など、葬られる人の地位を見

せつけるように選ばれています。

さあ、籠池古墳を観察してみましよう。まず築かれた場所は、大久保町の通称西山の南西に延びた山裾です。ここからは、集落や水田を見渡すことができます。古墳の形は、平面形が丸い直径20mの円墳です。盛土の高さは2.5m以上もあります。葬るための施設は、横穴式石室と呼ばれる石の部屋です。古墳の横にトンネルのような入口があり、羨道（通路）を抜けると、広い玄室（遺体を葬る部屋）があります。東南東に入口を持ち、全長は9mもあり、渥美半島屈指の大きさです。機械もなかった当時、よくぞこんなものを築いたと感心してしまいます。

残念ながら、現在は天井の石が失われていますが、かつて石で囲まれていた玄室は荘厳な空間だったに違いありません。羨道は、腰をかかめない頭がつかえてしま



古墳の盛り土の様子
羨道と玄室の高さに段差

があるのは、近畿地方の影響です。玄室の奥壁に立つ大岩は東三河の特徴で、板状の石を組み合わせ遺体を葬る棺を作るのは三河湾周辺の特徴です。遺体に供えられた副葬品は盗掘のためあまり残っていませんでした。しかし、この古墳の個性を語るには支障はありません。

これらの特徴から、籠池古墳に葬られた人は、三河湾・伊勢湾を越えた広い地域との交流を持ち、様々



石室内の様子（羨道から玄室をのぞく）

な文化を柔軟に取り入れた個性派の人だったことでしょう。

渥美半島の古墳はすべて古墳時代の終りのもので、皆さんが教科書で習った前方後円墳など、巨大な古墳は築かれていません。「大きい」「古い」「一番」などという尺度ではこの古墳の価値を評価できませんが、地域の個性という点で籠池古墳の価値がわかりになったことでしょう。そして、籠池古墳は盛土の様子が観察できる半島内でも数少ない古墳であり、その個人的な石室の造りが評価されて指定文化財となったのです。

古墳時代は、中央政権が全国的に及んでいた時代ですが、その流れとは別に、渥美半島には個性溢れる古墳が数多く築かれています。ここに生活を営む人々は、半島という立地を最大限に生かし、独自の文化をつくりあげた人たちだったのです。しかも、これらをつくった人たちは誇るべき我々の祖先なのです。

（増山）

生涯学習課 ☎ 23局3531